ラジオサンキュー「ともみとともに」

6 月 5 日 11 時 20 分〜53 分放送は、林京香さんご両親が登場。「キンチョ―の 33 分間」メモを取り、じっくりと耳を傾けた。放送のおおまかな流れを必死に書きとめたメモから再現しよう。

・最初に 6 月 24 日「ドキュメンタリーDVD 上映会&講演会 IN 愛知」についての紹介。主催者の「バクバクの会―人工呼吸器とともに生きる」、当日上映「風よ吹け！未来はここに!!」、講演 1.2 を二人から説明。多彩な企画の成功に向け、名古屋に風よ吹けと。

・京香さんの誕生。気管切開の「決断」と人工呼吸器をつけた生活。療育センターなどでの保育の歩みが語られる。人工呼吸器をつけて地域で生きる、みんなと一緒に過ごすことの大切さを痛感するようになる。

・地域の学校に通って 5 年余り。毎朝、学校に行くのを楽しみにしている。本人の喜び、やる気を肌で感じる。4 年生後半あたりから、学校にも「インクルーシブ教育」を理解してもらえるように。「完全参加と平等」をめざし、どうしたら一緒に学べるか、いろいろ工夫してもらっている。京香と学校でいっしょに生活し学ぶことで、クラスメイト、先生たちも分かってきたのでは。クラスメイトが「京ちゃんルール」を作るなど工夫をして、ともに学び遊んでいる。子どもたちの力に感心する。

・二つ違いの妹と同じ学校に通っている。妹は雨の日などに、お姉ちゃんと一緒に登校できないと残念がる。学校では、看護介助士の方たちが常時介助している。

・地域の人たちも最近は違和感なく、登下校を見守るように。人工呼吸器をつけて学校へ行くのが、ふつうで当たり前の光景になった。来年には地域の中学校へ。

・盛りだくさんの企画の「上映会&講演会」に、こうした障害のある人のことを知らない人たち、とりわけ若い人たちに来てもらいたい。世の中には、いろんな障害のある人、見えない障害のある人も多い。それぞれ違いがあり、多様である。一緒に生活するなかで、障害も理解できるようになる。ともに過ごさないと、分からないのでは。最初から場所を分けないこと。「怖さのバリア」を取り除くうえで、学校での経験は子どもたちの成長にとっても大切だと思う。ともに学び生活する「インクルーシブ教育」に期待。

京香さんのことを考えながら聴いたが、とりわけ印象に残ったことを二点だけ。

・京香さんご両親のあつい思いが、ラジオから伝わってきた。「バクバクの会」や京香さんの楽しい学校生活、クラスメイトや妹、地域の人たちのことも心に残った。

・司会の林ともみさんが、ベテランプロらしく、二人から話をうまく引き出していた。ともみさんも障害のある子を育て、三人の気持ちが深く通じあっているのを実感できた。

（2017年6月7日）